

16 公衆電話所

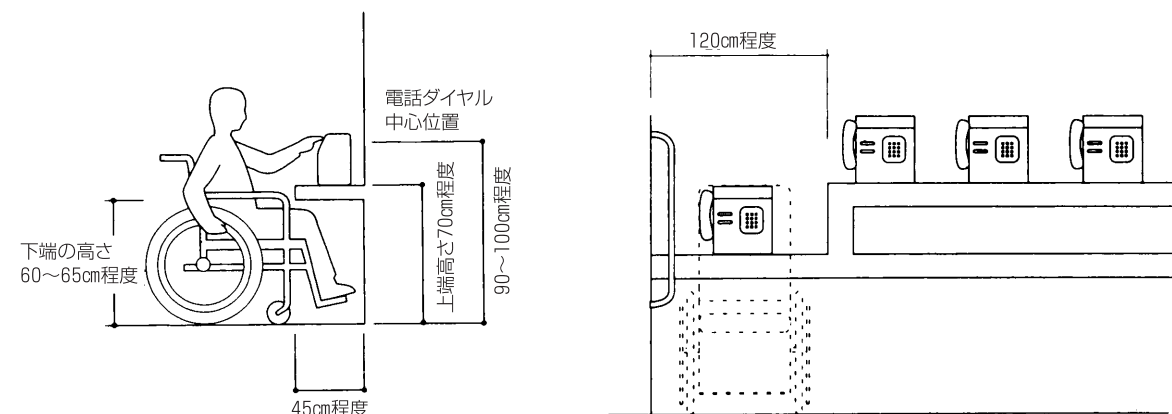
■基本的な考え方■

車いす使用者の利用に配慮するだけでなく、高齢者や視覚障害者等だれでも快適に利用できる公衆電話を玄関ホール等のわかりやすい場所に設置する。

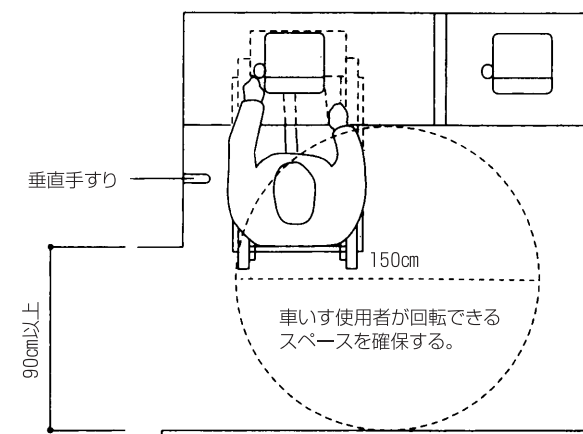
項 目	解 説
(3) 幅	○出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。
(4) 表示	○聴覚障害者や視覚障害者の利用に配慮した機能を持つ電話機や公衆ファクシミリを設けた場合には、見やすい場所にその旨を表示するよう努めること。

配慮事項	
項 目	解 説
構造	○ボックス形式とする場合は、ドアの開閉が容易で、内部で車いすが回転できるスペース(直径150cmの円が内接できる程度)を確保する。 ⇨図2参照 ○周囲には、車いすで移動・回転できるスペース(直径150cmの円が内接できる程度)を確保する。
手すり、いす等	○杖使用者等歩行困難者が利用しやすいように体を支える手すり、いす等を設ける。 ⇨図2参照
照明	○電話番号の検索、メモ等に支障がないように照明に配慮し、必要に応じ、手元灯を設置する。

公衆電話所の例 (図1)



電話台周辺の整備例 (図2)



整備基準	目標となる指針
16 公衆電話所 公衆電話所を設ける場合においては、次に定める構造の公衆電話所を1以上設けること。 (1) 音量の調節が可能な受話器、点字による表示のあるダイヤルその他の視覚障害者及び聴覚障害者が円滑に利用することができる機能を備えた公衆電話機を設置すること。 (2) 電話台は、車いす使用者が円滑に利用することができる構造とすること。 (3) 公衆電話所に出入口を設ける場合においては、当該出入口は、1の項〔出入口〕に定める構造とすること。	15 公衆電話所 公衆電話所を設ける階及び敷地内の通路には、次に定める構造の公衆電話所をそれぞれ1以上設けること。 (1) 音量の調節が可能な受話器、点字による表示のあるダイヤルその他の視覚障害者及び聴覚障害者が円滑に利用することができる機能を備えた公衆電話機を設置し、その設置の旨を表示すること。 (2) 電話台は、車いす使用者が円滑に利用することができる構造とすること。 (3) 公衆電話所に出入口を設ける場合においては、当該出入口は、1の項〔出入口〕2に定める構造とすること。 (4) 聴覚障害者及び視覚障害者が円滑に利用することができる公衆ファクシミリの設置及びその設置の旨を表示するよう努めること。

整備基準の解説	
●整備の対象 公衆電話所を設ける場合には、一以上の車いす使用者や視覚障害者等が利用できる構造の公衆電話及び電話台を設ける。	
項 目	解 説
(1) 設備	○視覚障害者が利用しやすいようにダイヤル、テレホンカードの挿入口や金銭投入口等を点字で表示する。 ○聴覚障害者が利用しやすいように音量増幅装置付受話器とする。
(2) 電話台	○車いす使用者が利用する電話台の高さは下端：60～65cm程度、上端：70cm程度、奥行き45cm程度とし、下部には車いすのフットレストが入るようにクリアランスをとる。 ⇨図1参照 ○車いす使用者が硬貨投入口に手が届き、楽な姿勢で操作できるように受話器及び電話ダイヤル又はプッシュボタンの中心位置の高さを90～100cm程度とする。 ⇨図1参照
(3) 幅	○出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。

目標となる指針の解説	
●整備の対象 公衆電話所を設ける階及び敷地内の通路には、それぞれ一以上の車いす使用者や視覚障害者等が利用できる構造の公衆電話及び電話台を設ける。	